■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

社名	匠設計コンサルタント	氏名	溝部　圭哉	経験年数	5 年
			郡司　大輝		5 年
			鈴木　玲士		3 年

□S 造・階段エリア

・今まで施工図で何度も目にしていたスラブ段差や鉄骨部材について、実際の施工状況を確認することで、図面上の寸法や線だけではイメージしにくかった構造や納まりを具体的に理解することができました。
特に、スプライスプレートの厚みや柱継ぎ目のエレクションピースなど、実物を見ることで初めて実感できる部分も多く、図面と現場を結び付けて考えることの重要性を感じました。
・鞘管や転落防止用のフックなど、普段の作図ではあまり意識していなかった部材についても、
実際にどのような目的で使用されているのかを知ることができました。図面に描かれているものだけを見るのではなく、その部材が「なぜ必要なのか」「現場でどのように使われるのか」まで考えることで、今後より施工を意識した図面を作成できると感じました。

□RC 造・EV エリア

・関東と関西で型枠に使用する部材や組み方に違いがあることなど、実際の現場を見なければ気付きにくい施工上の違いについても知ることができました。今後は図面を作成する際にも、単に図面上で納まりを成立させるだけでなく、実際に施工できるか、必要なスペースが確保されているかまで意識して作図していきたいです。
・パラペットなど屋上部分の躯体や、PC 造の緊張端・固定端を実際に見ることができ、RC 造とは異なる施工方法や注意点について理解を深めることができました。特に、緊張作業を行うためのジャッキ設置スペースや仮設足場との干渉など、施工を行うためのスペースまで考えて計画する必要があることが印象に残りました。

□外装・屋上エリア

・普段の業務でよく目にする ALC や ECP、サンドイッチパネルを実際に見比べることで、
それぞれの断面構成や下地、サッシとの取り合いなどを具体的に理解することができました。
図面上では分かりにくかった外壁の内部構造や固定方法を実物で確認できたことで、今後の作図でも納まりをより具体的にイメージできるようになりました。
・外壁の目地については、単にパネルを納めるためのものではなく、目地の位置によって開口部やサッシの位置にも影響するため、パネル割の重要さを改めて知ることが出来ました。
また、普段何気なく図面に記載している水抜きパイプについても実際の施工を見ることで、その役割や細かな納まりを理解することができました。

□内装エリア

・天井の仕上げ前の状態を確認することで、天井がどのように吊られ、何によって支持されているのか、また振れ止めがどのように使われているのかを実際に見ることができました。
普段作成している天井伏図だけではイメージしにくい天井裏の構造を確認できたことで、今後は天井の納まりをより具体的に考えながら作図できると感じました。
・機械室内のグラスウールボードなど、機械室だからこそ見ることのできる断熱・遮音の施工状況を実際に確認することができました。普段の図面では仕上げによって隠れてしまう部分を見ることで、
建物の用途に応じてどのような仕様が使われているのかを具体的に理解することができました。

□全体

・今回の研修会で、図面や資料の上だけではとらえきれなかった実際のスケール感や、各工種の緻密な連携、現場における品質管理の工夫について、非常に多くの経験をすることができました。
全体を通して、図面に描く一本の線、ひとつの記号、あるいは事前のプロセスの検討が、現場の施工性、品質、安全性、そして建物の意匠に直結していることを学びました。ただ図面を引く、ただ施工するのではなく、設計・施工・設備が互いの業務を深く理解し、先を見据えて連携していくことの大切さを実感しました。今回の経験で得た多くの気づきを、今後の実務に活かしていきたいと思います。

・今回の合同研修を通して、普段の施工図業務では見ることのできない構造の取り合いや下地の関係などを実際に確認することができ、今後の業務に生かしていきたいと感じました。
また、型枠下地における関東と関西の違いや、スペーサーについても、右回転では緩くなってしまい、左回転では締めすぎてしまうため調整が難しいといった、普段の施工図業務では聞くことのできない興味深い話を聞くことができました。今回の研修を通して、建物そのものだけでなく、さまざまな工夫や考え方を経て建物が完成していく過程についても、改めて興味深く感じることができました。

・今回の研修会で今まで図面を見ているだけだとイメージしにくいところも、実物を見ることでこうなっていたのかと思える事が多々あり勉強になりました。また、改めて、実際に実物を見ることの大切さがよくわかりました。
施工性だけではなく現場での安全面も考慮した工夫を見ることができ、自分が図面を作成した後の流れを知ることが出来ました。
今回の研修で学んだことを活かし、現場のことも考えながら図面を作成していきたいと思います。

□その他感想や要望等自由記入

・実際に鉄筋が組みあがる工程を見学出来たらよいと思いました。どのくらいの時間がかかるのか、どのような道具を使っているのかを見て取れるとさらに理解が深まると感じました。

・今回は5年目の社員を招待いただきましたが、1年目、2年目のフレッシュな社員でも、実際に現場を見て部品の名称や特性を知ることはよい体験になるのではないかと思いました。

・施工する際に使用する工具や、施工手順が知れたらより理解が深まるかなと思いました。

・何か自分の手で体験できるものがあったら、もっと現場を知ることができるのではないかと感じました。

■写真（コメント等自由記載）



←転落防止用ネットを掛けるフック等の、図面で書くことがない部材があることを知ることが出来ました。
安全に施工するための対策を現場でしていると気づきました。



←ブレースは鉄鋼のみでできているものだと思っていましたが、内部にモルタルを充填することで強度を高めているものもあることを、今回初めて知りました。



↑エレクションピース
イメージしていたものよりも大きく感じました。



↑厚み検査ピン
一目で厚みがわかるので工夫されているなと思いました。



PC 造の切断後の状態を見て、切断された長さにかなりばらつきがあることを知りました。